

2026年度大学入学共通テスト分析[国語]

大問	配点	単元	出典	難易度	問題文 文字数 ※()は前年差	全体 文字数 ※()は前年差	目安 時間 (分)	特徴	2026年度 本試験 平均得点率	2025年度 本試験 平均得点率
全体	200	—	—	やや 難化	約12,000字 (+1,960字)	約25,300字 (-220字)	90	—	58.18%	63.34%
第1問	45	評論	櫻井あすみ『贈与』としての美術・ABR	昨年 並	約4,200字 (+400字)	約7,600字 (-200字)	21	<ul style="list-style-type: none"> ・単独の文章からの出題 ・問題文以外の資料・図などの出題はなし ・選択肢はすべて四択 ・問題文全体の表現の特徴や構成・展開について問う設問がなく、すべて傍線部の内容読解に関わる設問 ・オーソドックスな読解力を問う出題だが、選択肢を丁寧に吟味する必要がある ・特に問4・問6は細部まで検討する必要があり、難度が高い 	—	66.74%
第2問	45	小説	遠藤周作「影に対して」	昨年 並	約3,700字 (+400字) 文章:約3,700字 引用文:約500字	約8,200字 (-20字)	19	<ul style="list-style-type: none"> ・単独の文章からの出題 ・選択肢はすべて四択 ・問1～問4は傍線部の内容理解に関わる設問 ・問5は本文の表現に関する設問 ・問6は【ノート】型で、出典の別の場面が少し引用されており、簡単な会話(対話)も含む ・語句の意味を問う問題はなし ・問5と問6(ii)は紛らわしい選択肢が含まれ、やや難度が高かった 	—	73.47%
第3問	20	言語 活動	【資料Ⅰ】山形昌也氏へのインタビュー記事「科学絵本のアプローチ」 【資料Ⅱ】大片忠明『イワシ むれで いきる さかな』 【資料Ⅲ】東京水産振興会『世界はイワシでできている?』	昨年 並	約2,090字 (+1,030字) 資料Ⅰ:約370字 資料Ⅱ:約640字 資料Ⅲ:約490字	約4,250字 (+850字)	13	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度同様、生徒の作成した文章を軸に、複数の資料を参照しながら「表現の修正・加筆」をさせるという、言語活動を意識した出題になっている ・グラフの読み取りがなくなり、昨年よりも時間がかからなくなった印象 ・選択肢は四択と、六択二選 ・問3は(i)(ii)とも根拠がつかみづらく、やや解きづらかった 	—	66.01%
第4問	45	古文	『うつほ物語』	やや 難化	約1,060字 (±0字) 文章:約970字 引用文:110字	約3,100字 (-700字)	20	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の問題形式を踏襲しつつ、問5は2025年度の本試験にあった生徒の会話問題ではなく、問題文のあとの場面の引用文を踏まえた読解問題であった ・会話文がなくなった分文字数は減り、選択肢も四択ベースであったが、後半の問4・5は五択であり、問題文と選択肢とを人物関係や展開に注意しながら丁寧に照合する必要があった ・出典の『うつほ物語』は別の場面が2000年度本試験、2014年度追試験で出題されている 	—	57.42%
第5問	45	漢文	長野豊山『松陰快談』	やや 易化	459字 (+130字) 文章:161字 注:234字 引用文:42字 注:22字	約2,120字 (-150字)	17	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度と同様の日本漢文からの出題で、詩論 ・漢詩はなし ・語の意味を問う問題(文脈からの判断色が強い)・文法問題・解釈・内容読解といった標準的な形式の設問が出題された ・問3以外はすべて四択の設問となっており、問7は設問中に引用文を示す出題形式で、2025年度再試験と同様の形式だった 	—	54.51%